

小児科

1. 診療科の概要

一般小児外来に加え、感染症（予防接種等）、内分泌・代謝、腎・泌尿器、膠原病、アレルギー、循環器、血液・腫瘍、神経・筋、児童精神、新生児・発達などの各種専門外来が設けられ、新生児から思春期までの各年齢層における外来診療や入院加療を行っている。重症で難治な感染症、急性脳炎・脳症、溶血性尿毒症症候群、甲状腺クリーゼなどに対する集約的治療を提供している。また、神経筋領域では難治性疾患に対する最新の遺伝子治療を、循環器領域では不整脈に対するカテーテル治療を、血液・腫瘍領域では化学療法・放射線療法、臍帯血移植を含む造血幹細胞移植、さらになんゲノム解析を利用した分子標的治療など、数多くの幅広い小児専門分野における治療を行っている。

2. 臨床研修指導医

指導責任者：津川 毅

指導医：山本 雅樹、福村 忍、五十嵐 リサ、石井 玲、長岡 由修、平川 賢史、坂井 拓朗、
富樫 篤生、赤根 祐介、野上 和剛

3. 研修担当者

氏名：長岡 由修

連絡先（メールアドレス）：yonagao@sapmed.ac.jp

4. 研修初日の集合時刻と集合場所

集合時刻：8時45分 集合場所：西病棟5階 教育診察室

5. 到達目標

- ・ 外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応ができる。
＜ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便秘異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、終末期の症候＞
- ・ 外来または病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたることのできる。
＜心不全、高血圧、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、急性胃腸炎、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、糖尿病、脂質異常症、うつ病＞
- ・ 加えて、小児科では下記の疾病・病態を診療することが可能である。
＜脳炎・髄膜炎、甲状腺疾患、糖尿病、ネフローゼ・腎炎、自己免疫疾患、食物アレルギー、先天性心疾患、不整脈、血液・悪性腫瘍、神経筋疾患、てんかん、成長障害、精神運動発達障害、心身症、神経性食思不振症＞

6. 研修内容

回診とカンファレンス

- ・入退院カンファレンスを月～金曜日に週5回行う。
- ・グループカンファレンスを月～金曜日に週5回行う。

抄読会・勉強会

- ・週1回医学雑誌の抄読会および勉強会を行う。この他にグループごとに抄読会を行う。

7. 研修医の主な業務

各診療グループに配属され入院症例の診察、検査、処置に積極的にかかわり、成人疾患とは異なった小児特有の疾患の診断と治療を行うことができるようにする。また、抄読会での発表、研究会、学会などでの発表も積極的に行い医師として、小児科医としての技能、知見を高める。

8. 研修スケジュール ※は、入退院カンファレンスおよびグループカンファレンス

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
月		※	病棟					病棟				
火		※	病棟					病棟		抄読会 勉強会		
水		※	病棟					病棟				
木		※	病棟					病棟				
金		※	病棟					病棟				

9. 初期臨床研修時の症例を活用できる専門医資格

該当なし（小児科専門医取得後に活用可能）

10. 研修協力施設

- ・たすきがけ市中病院（協力型臨床研修病院）

NTT 東日本札幌病院、JCHO 札幌北辰病院、岩見沢市立総合病院、砂川市立病院、滝川市立病院、小樽協会病院、製鉄記念室蘭病院、苫小牧市立病院、市立函館病院、北海道立江差病院、留萌市立病院、市立釧路総合病院、市立根室病院

- ・短期研修可能な施設等（臨床研修協力施設）

北海道医療センター、北海道立子ども総合医療・療育センター、生涯医療クリニックさっぽろ※

※令和6年度（2024年度）プログラムから研修可能